

令和8年度 社会福祉法人みねやま福祉会 事業計画

1 理念

- ・創立の理念を尊重し、より質の高い福祉サービスの提供
- ・地域の人々の、こころ豊かで安心・安全な暮らしへの貢献
- ・誇りと夢を持ち、福祉の仕事にまい進できるよう職員の幸福追求

2 NEXT VISION 2030

「あらゆる垣根を越境し、新しい“フクシ”を創造する。」

5つのアップデート

- (1) 生産性のアップデート
個性の発揮とテクノロジーの活用によって常識の枠を越えよう
- (2) 品質のアップデート
専門性の集約と地域展開によって制度の枠を越えよう
- (3) 人材のアップデート
主体的な学びと自律的な判断によって思考の枠を越えよう
- (4) 組織のアップデート
積極的な挑戦と時代を切り拓く革新によって管理の枠を越えよう
- (5) 対象のアップデート
多様性の尊重とより良い社会への憧れによって自分の枠を越えよう

3 ミッション

「“フクシ”の仕事で暮らしの困り事を解決する。」

- ・私たちは、ケアを通じて人々の暮らしを整えます。
- ・私たちは、福祉の公共性を自覚して地域のニーズに応え続けます。
- ・私たちは、あらゆるパートナーと連携して地域の発展に貢献します。

4 品質方針

- ・私達は、サービス提供の全ての場面で「管理より生活を」大切にします。
- ・常に正しい情報の把握と提供に努め、自分が受けたサービス提供・改善に努めます。

5 基本方針

- (1) 胸が張れるケアの追求
常に向上心を持って、利用者や家族、地域から信頼される福祉サービスを提供します。
- (2) 見えない困り事を見ようとし、聴こえない声を聴こうとする
潜在化しているニーズを掘り起こし、当事者の最善の利益を追求します。
- (3) 断らない相談支援
「いつでも、どこでも、だれでも」で表される普遍主義に則り、福祉サービスが必要な人へ、必要な福祉サービスを提供します。
- (4) 自己実現の追求
職員の育成に努め、職員の人生が福祉の仕事を通じて豊かになるよう支援します。
- (5) コンプライアンスの遵守
あらゆる法の理念に基づき、それを遵守します。

6 令和8年度法人目標

【2026年度テーマ】

「創立100周年へのロードマップを描き、法人の土台を整える。」

2026年度は、創立100周年までの道筋を描き、理念・経営・組織基盤を整える初年度と位置づける。

(1) 品質方針の構造化

品質方針である「管理より生活を」の定義を明文化し、評価・改善できる仕組みを構築する。

- ① 「管理より生活を」が意味する具体的行動・状態を整理し、法人共通定義として明文化する。
- ② セルフチェック評価基準シートを策定する。
- ③ 策定した評価基準シートを活用し、全事業所でセルフチェックを実施する。
- ④ 評価結果に基づく改善アクションを明文化し、法人内で共有する。

(2) 主要経営指標の目標設定と月次目標管理の徹底

主要経営指標の目標値を設定し、法人および各事業所において月次目標管理を実施する体制を確立する。

- ① 主要経営指標の目標値を年度当初に設定する。
- ② 施設長会において毎月月次レビューを実施する。
- ③ 各事業所において月次ミニレビューを実施する（指導職を含む）。
- ④ 目標未達時には改善アクションを明文化し、翌月以降の進捗を確認する。

(3) 未来創造プロジェクトの始動

法人の中長期的発展を見据えたプロジェクトチームを発足し、モデル設計を行う。

- ① テクノロジーを活用した健康管理モデル開発プロジェクトを設置する。
- ② 福祉教育を体系化するプロジェクトを設置する。
- ③ 食のクオリティ向上と新調理システム導入を検討する調理改革プロジェクトを設置する。
- ④ 各プロジェクトにおいてモデル設計および実証を行い、理事会に報告する。

(4) 整理整頓・DX推進・法人内クロスチェックの実施

整理整頓とデジタル整備を推進し、法人内に継続的な自己点検・改善文化を構築する。

- ① 整理整頓に関する法人共通基準を策定する。
- ② 自主チェックを可能にするチェックシートを策定し、運用を開始する。
- ③ ペーパーレス化および情報管理のデジタル化を推進する。
- ④ 業務効率化を目的としたデジタルツール活用を促進する。
- ⑤ 法人内クロスチェック制度を構築し、運用を開始する。

(5) 100周年ロードマップ策定と新本部拠点整備構想

創立100周年までの24年ロードマップを策定し、新本部拠点整備構想を具体化する。

- ① 創立100周年までのロードマップを策定する。
- ② 全拠点の修繕計画を整理する。
- ③ 障害グループホーム建設を推進する。
- ④ 新本部拠点整備構想を設計する。

7 令和8年度部門目標

【社会的養護部門】

(1) 子ども一人ひとりの思いを丁寧に受け止め、安心を土台とした信頼関係を深める中で子どもが自ら選び、表現し、主体的に過ごせる暮らしをつくる。

- ① 子どもの権利を守りながら、地域社会とのつながりの中で豊かな生活体験を重ねられる環境を整え、家庭的養育を継続、発展させる。
- ② 食事場面を大切な生活体験の一つとして捉え、ユニット調理やホーム調理の充実を図るとともに、食と被虐待児の心理的背景との関連について学びを深め、支援に活かす。

(2) すべての人が孤立せず、その人らしい生活を送ることのできる社会の実現を推進する。

- ① おひさまひろば、のびっこクラブ、こども食堂「MOGUMOGU」の活動を継続して行い、京丹後市委託事業の子育て短期支援事業、産後ケアと新たにトワイライトステイ事業を受託し行う。
- ② 里親について地域の方々に知ってもらうための啓発活動やリクルーティング、「SATOKAFE」の開催を実施していきながら、9年度の里親支援センター開設に向けて準備を始めていく。

【保育部門】

(1) 主体性保育の深化と専門連携による実践力の向上

- ① 理念の共有と体现
「みねやま福祉会の主体性保育」を共通言語化し、職員一人ひとりが理解を深めることで、日々の保育における主体的な実践へとつなげる。
- ② 専門性の融合と多角的支援
療育の専門的視点を学び合い、部門横断的な連携を強化することで、こどもの多角的な理解に基づいた成長を支える保育を実践する。

(2) 切れ目ない支援体制の構築と地域に信頼される園づくり

- ① 保護者支援の拡充
オムツのサブスクリプション導入や「手ぶら登園」の推進など、保護者の負担軽減に資するサービス向上を追求する。
- ② 新制度の着実な実施
「こども誰でも通園制度」を円滑に実施・運用し、地域の保育ニーズに柔軟に応える。(ゆうかり子ども園、吉津子ども園、大宮北保育所)
- ③ 伴走型相談支援の展開
法人内の助産師による妊産婦相談や栄養士による相談会等を通じ、妊娠期から育児期まで地域に根ざした切れ目ない支援体制を構築する。

【障がい部門】

(1) 支援における共通の軸を持つために、障がい部門のコンセプトを定める。

- ① より効果的なチームアプローチを行うために、その拠り所となる部門コンセプトを定め、共通認識のもとで支援を行えるようにする。
- ② コンセプトをもとに各事業所の役割を明文化することで、人生のどの局面を支えるのかを明確にする。
- ③ 共有・対話の機会を設けることでコンセプトや各事業所の役割を浸透させ、それぞれの職員が採用活動の一端を担える状態をつくる。

(2) 専門性の高いサービスを安定して提供するために、職員育成の仕組みを充実・発展させる。

- ① 既存の Grow+ や部門内研修を整理・再構成することで、共通研修と事業所別研修の位置づけを明確にする。
- ② 障がい部門としての研修体系を整備・充実させることで、経験年数に応じた成長の道筋を可視化し、今年度中に試験運用を行う。

(3) 利用者の生活を継続して支えるために、障がい部門の事業のあり方を見直す

- ① 今後予定しているグループホームの立ち上げも見据えながら、それぞれの事業の役割や組み合わせを検討し、利用者の生活を切れ目なく支えられる体制と安定した事業運営を両立させる計画を立てる。

【高齢部門】

(1) 暮らしを支えるケア

- ① ご利用者一人ひとりの想いや生活を大切に、『その人らしい暮らし』を支えるケアを実践します。

- ② 日常生活の中でできる事やしたい事を大切にしながら、ご利用者が安心して心地良く過ごせる環境を整え、自立支援と生活の質の向上を目指します。

(2) 対話で作るチーム

- ① 職員同士の対話や情報共有を大切にし、チームとして支援の質を高めていきます。
- ② 互いの意見や経験を尊重しながら学び合い、職員一人ひとりが主体的に考え行動できる組織づくりを進め、働きやすく成長できる職場環境を目指します。

(3) 地域と繋がる福祉

- ① 地域や家族、関係機関とのつながりを大切にしながら、地域の中で安心して暮らし続けられる支援を行います。
- ② 地域交流や情報発信を通して地域に開かれた福祉拠点としての役割を果たし、地域から信頼され必要とされる事業所を目指します。